

福島イノベーション・コースト構想推進機構 2026年7月の主な取組

2026年8月24日

公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構

ふくしまイノベ未来講座



福島イノベ機構

福島イノベーション・コースト構想への理解促進や探究学習の充実、将来のイノベーション人材の育成を目的とする「ふくしまイノベ未来講座」を **計14講座** 実施し、**延べ254名** が受講しました。

No.	実施日 7月	依頼者	対象	学年	人数	講師		
						氏名	所属	講義 演題
1	3日	県立南会津高等学校	高校	3年生	12	望月 翔太	福島大学 食農学類	野生動物と共存する地域づくり 学校農場から始める獣害対策
2	6日	県立南会津高等学校	高校	3年生	24	黒沢 高秀	福島大学 共生システム理工学類	生物多様性保全の基礎
3	13日	福島市立荒井小学校	小学校	6年生	18	芳賀 菊博	福島イノベ機構	福島イノベーション・コースト構想 はじまりの物語
4	22日	日本大学東北高等学校	高校	2年生	38	芳賀 菊博	福島イノベ機構	福島イノベーション・コースト構想推進機構の取組等について
5	22日	ふくしまサイエンスワークショップ※ 会場：アピオスペース（会津若松市）	小学校	複数	19	田中 千尋	お茶の水大学 サイエンスエディケーション	立方体の岩塩標本をつくる実験
6	27日	日本大学東北高等学校	高校	2年生	14	望月 翔太	福島大学 食農学類	クマと人の共生を考える ― 野生 動物管理の現在と、地域の合意形成
7	27日	日本大学東北高等学校	高校	2年生	20	近藤 崇弘	株式会社ALAN	医療職だけでなく、医療を届ける 多様な職種
8	27日	日本大学東北高等学校	高校	2年生	7	大出 大輔	ASTRO GATE株式会社	希望を持てる社会をつくる ～宇宙への玄関口スペースポート～
9	27日	喜多市立熊倉小学校	教員等	-	21	桜井 秀	医療法人 桜井産婦人科医院	性の健康教育と未来
10	27日	ふくしまサイエンスワークショップ※ 会場：ビッグパレットふくしま（郡山市）	小学校	複数	31	田中 千尋	お茶の水大学 サイエンスエディケーション	立方体の岩塩標本をつくる実験
11	28日	日本大学東北高等学校	高校	2年生	26	渡邊 正己	京都大学	福島原発事故の経験から社会に おける科学者の役割を学ぶ
12	28日	日本大学東北高等学校	高校	2年生	7	富川 泰介等	東京電力ホールディングス	福島の復興と福島第一原子力 発電所廃炉の状況について
13	28日	日本大学東北高等学校	高校	2年生	11	橋本 綾子	株式会社manisonias	空から地域を変える ードローンが拓く福島の未来ー
14	30日	ふくしまサイエンスワークショップ※ 会場：CREVAおおくま（大熊町）	小学校	複数	6	田中 千尋	お茶の水大学 サイエンスエディケーション	立方体の岩塩標本をつくる実験

※ふくしまサイエンスワークショップ：福島県教育委員会主催により、会津・中通り・浜通りの3会場で開催され、先端技術体験や放射線の性質を学ぶ体験、科学実験などの体験型講座として開催。各会場では、ロボマスター操縦体験や情報ネットワーク・コンピュータを活用した先端技術体験などを実施しました。ふくしまイノベ未来講座では、「立方体の岩塩標本づくり」の講座に係る講師の紹介・調整を行うとともに、当日はイノベブースを設置し、福島イノベーション・コースト構想の周知・広報活動を実施しました。

7月27日開催 お茶の水大学・田中先生による「立方体の岩塩標本づくり」。
完成した標本を先生に見てもらい、参加者は笑顔で出来栄を確認していました。



令和8年度ふるさと創造学教員研修会



福島イノベーション機構

今年度も、双葉郡 8 町村が連携して進める「ふるさと創造学」の更なる充実、発展を目的として実施されました。

日 時	場 所
令和 8 年 7 月 3 日（金） 13：15～16：10	浪江町防災交流センター
参加人数	実施主体
双葉郡内 29 名（教職員 20 名、教育委員会 9 名） 双葉郡外 17 名（教職員 3 名、教育委員会等 4 名、関係者 10 名） 合計 46 名	主催：福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会 共催：福島イノベーション・コースト構想推進機構 後援：福島県教育委員会



川内村教育委員会 堀本 晋一郎 教育長、福島大学人間発達文化学類 坂本 篤史 教授、双葉町出身の遠藤 瞭 氏からそれぞれ「ふるさと創造学」についてご講話いただき、探究学習に関するグループディスカッションも行われました。遠藤 瞭 氏は小学校から中学校までの9年間「ふるさと創造学」に取り組んだ卒業生であり、本研修会では初めて卒業生を講師として招きました。当日は、ご自身の探究活動の経験を踏まえ、探究活動が進路選択やキャリア形成にどのようにつながったかについてお話いただきました。参加した先生方からは「ふるさと創造学に関する考えかたを他校と共有することができた有意義な時間だった」「新たな視点が得られてよかった」「様々な視点からの意見があり、今後の総合的な学習の時間の参考になった」などの感想が寄せられ、多くの気づきと学びを得る有意義な時間となりました。

福島イノベーション企業合同メディア発表会

今年度第1回目のメディア発表会は、「DXヘルスケアによる日々の暮らしの向上を目指して」をテーマに、実用化補助金採択企業4社が開発・実証・事業化の成果について発表するとともに、交流タイムにおいて実機によるデモを行いました。

日 時

令和8年7月9日（木） 13:30～15:15

場 所

中町ビル2階 大会議室

参加人数

24人（報道機関5社5人 その他関係者19人）

主 催

福島イノベーション・コースト構想推進機構



WALK MATE LAB、タグル、Qolo、リスク計測テクノロジーズの4社が実証・開発・事業化への成果や今後の展望を発表し、後半の交流タイムでは、各社のブースにて実機を用いた体験や質疑応答が行われました。

当日は報道機関5社が参加したほか、県健康づくり推進課や東邦銀行等の関係者が参加し、登壇企業と交流を図りました。

参加メディア：福島民友、日経新聞、読売新聞、日刊工業新聞、福島放送

ふくしま12市町村移住支援センター東京サテライト開所式

「情報発信等による移住につながる関係・交流人口拡大拠点」として、新たに東京都港区（ミタマチテラス4F「SENQ田町」）に「ふくしま12市町村移住支援センター東京サテライト」を令和8年7月10日（金）に設置。当日は、行政機関、企業、メディア等を招聘し開所式を開催。



（主催者挨拶・川村次長）



（来賓挨拶・古橋審議官）

日時

令和8年7月10日（金）10:30～11:30

場所

ミタマチテラス3階会議室（東京サテライト入居ビル）

参加人数

67人（行政機関23人、企業26人、メディア9社 他）

主催

福島県



（パネルディスカッション）

開所式では川村猪佐雄県避難地域復興局次長が「サテライトを活用し引き続き避難地域の復興に取り組んでいきたい」とあいさつし、古橋季良復興庁統括官付審議官が祝辞を述べました。ふくしま12市町村移住支援センターの藤沢烈センター長が東京サテライトの概要を説明し、首都圏からの移住者によるパネルディスカッションも繰り上げられ、立川哲之さん（南相馬市、ぷくぷく醸造代表）、原伸一朗さん（葛尾むらづくり公社）、古谷恵美さん（富岡町図書館司書）が本県の魅力などを語りました。

移住セミナー（イベント出展）

ふくしま12市町村移住支援センターが主催する「移住セミナー」の相談コーナーに「福島イノベ機構」としてブースを出展しました。移住に興味のある方々に対して「福島イノベーション・コースト構想」の取組について説明し、地域の魅力を伝えました。

日 時

令和8年7月11日（土）13:00～15:00

場 所

東京都港区 S E N Q 田町

イベント名

移住セミナー

主 催

ふくしま12市町村移住支援センター



令和8年度第1回廃炉スタディツアー

廃炉関連産業への参入・事業拡大を目指している県内企業※に、最新の1Fの状況をご覧いただき、事業活動の参考としていただくことを目的として開催しました。

※ 福島廃炉関連産業マッチングサポート事務局登録企業

日時

令和8年7月14日（火） 9:00～16:20

場所等

- 東京電力福島第一原子力発電所（大熊町、双葉町）
 - ① 構内視察、廃炉の状況説明
- 東京パワーテクノロジー(株)福島テクニカルセンター(富岡町)
 - ② 廃炉用ロボット操縦・グローブボックス体験等
 - ③ 講義
 - ・ 廃炉のお仕事に役に立つ話（TPT(株)）
 - ・ 中長期発注見通しについて（東電HD(株)）

参加企業

県内企業 10社（27名）

主催

福島県
福島廃炉関連産業マッチングサポート事務局
(イノベ機構が主たる窓口)



【RTF】 車両贈呈式

一般社団法人日本自動車販売協会連合会（自販連）より、東日本大震災および原子力災害からの復興支援活動の一環として、イノベ機構に対して、福島ロボットテストフィールドで使用する車両（トヨタノア）が寄贈され、車両贈呈式が行われました。

寄贈車両はロボットテストフィールドでの来訪者の視察対応等で活用いたします。

日 時

令和8年8月22日（水） 13:30～14:00

参加者

イノベ機構 斎藤保理事長、自販連 高田靖久会長

場 所

福島ロボットテストフィールド研究棟中庭

主 催

福島イノベーション・コースト構想推進機構



イノベ地域進出企業見学バスツアー

今年度新規事業として、イノベ地域に進出した企業等を訪問しイノベ構想についてリアルに体験できる見学ツアーを実施。

進出企業や拠点の見学に加えて担当者との意見交換を通じて、参加者にイノベ地域でのビジネス参入のきっかけや連携のヒントを提供。

日 時

令和8年7月23日（木）8：00～17：30

訪問先

南相馬市産業創造センター
テトラ・アビエーション(株)
MLC SPACE LAB
東日本大震災・原子力災害伝承館

参加人数

13団体17名

主 催

福島イノベーション・コースト構想推進機構

参加企業・団体

NAKANO（福島市）、福島タカラ電気工業松川工場（福島市）、
SOLIZE PARTNERS（東京都）、東北村田製作所（郡山市）、
ミューラボ（福島市）、永沢工機（福島市）、会津技研（西会津町）、CIA（伊達市）、鈴木機工（福島市）、（一社）ふくしま連携復興センター、東北経済産業局、福島市



参加者からの感想

- ・ 普段関わる機会のない企業を訪問でき、大変勉強になった
- ・ 他の参加者の方との交流ができたのも良かった
- ・ 企業や実機の見学に時間をもっと取ってほしかった

スタートアップツアー 第1回

福島イノベ地域の先進企業・コミュニティとの交流を含む、1泊2日の視察ツアーを通して

- ・新たな挑戦を行うスタートアップを呼び込む
- ・FTCや実用化補助金等、次のステップにつなげる
- ・地域事業者等とのネットワーク形成を図る

日 時

令和8年7月23日（木）～7月24日（金）
（第1回のみ日帰り（7月23日限定）あり）

訪問先

福島ロボットテストフィールド/小高パイオニア
ヴィレッジ/株菊池製作所 南相馬工場/
株ぷくぷく醸造/株haccoba/東京パワーテクノ
ロジー株/東京電力廃炉資料館/株ReFruits
/大熊インキュベーションセンター（OIC）
※OICにてFTCアラムナイ講演：株ReNu
Industries

参加人数

15名（1泊2日10名／日帰り5名）

主 催

福島県
福島イノベーション・コースト構想推進機構



RTFでは「ここで実証実験がしたい」との声が上がりました



（株）菊池製作所の技術に触れ、協業を検討したいという声も

参加者からの感想

- ・福島のアッセンブリー拠点検討で、実際の現場を見れてよかった
- ・誰もがチャレンジしやすい素晴らしい環境だと感じた
- ・投資先の拠点の候補の一つとして提案できると感じました

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ（イベント出展）

福島イノベ機構では、仙台市で開催された科学イベント「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ」に福島県立テクノアカデミー浜と共同でブースを出展しました。ブースでは形が変わる不思議なタイヤ「パッシブトランスフォームホイール」を搭載した4輪ロボットの操作体験と、「福島イノベーション・コースト構想」に関する情報発信を実施しました。

日 時

令和8年7月26日（土）10:00～16:00

場 所

宮城県仙台市 東北大学川内北キャンパス

イベント名

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ

主 催

特定非営利活動法人 natural science



令和 8 年度第 1 回廃炉関連産業交流会

廃炉関連産業への参入・事業拡大を目指している県内企業※と廃炉事業の元請企業との相互理解促進を目的として開催しました。

※福島廃炉関連産業マッチングサポート事務局登録企業

日 時

令和 8 年 7 月 27 日 (月) 12:50～16:30

場 所

浪江町防災交流センター (浪江町)

参加企業等

参加企業：37社 (77名)

(内訳) 県内企業 22社

元請企業 14社

東京電力HD

分野：設備工事・保守及び製造

面談数：120コマ

主 催

福島県

福島廃炉関連産業マッチングサポート事務局

(イノベ機構が主たる窓口)



第9回双葉郡小学校絆づくり交流会

「ふたばの未来を見据えた、8町村小学生による町村の垣根を越えた仲間づくり」と「双葉郡内小学校の教職員同士の交流、情報交換」を目的として、今年度も大熊町立学び舎ゆめの森を会場として開催され、多くの小学生が夏休みの特別な1日を楽しみ、絆を深めました。

日 時

令和8年7月28日（火）9：20～12：00

場 所

大熊町立学び舎ゆめの森

参加人数

児童267人、中高生実行委員（大学生ボランティアを含む）13人
教職員99人、保護者8人、関係者等27人 合計414人

実施主体

主催：双葉郡教育復興ビジョン推進協議会
共催：双葉地区教育長会、双葉郡小学校長会
福島イノベーション・コースト構想推進機構



開会式の前に、中高生実行委員（大学生ボランティア含む）の協力も得て企画運営するアイスブレイクが行われ、共通点さがしゲームやジェスチャーゲームなどのレクレーションを楽しんで緊張をほぐしました。開会式の後には、低学年グループがじゃんけん列車、誕生月に移動ゲーム、自己紹介、中学年グループがバースディチェーン、自己紹介爆弾ゲーム、バランス&サバイバル、新聞紙タワー、高学年グループが新聞紙じゃんけん、ドイツ文化についての国際理解出前講座といった内容で、それぞれ実行委員の先生方が企画した交流活動を行い、大いに盛り上がりました。閉会式後に中高生実行委員とハイタッチをしながら会場を後にする小学生の皆さんの表情は、一様に素晴らしい笑顔で、お互いの絆を深めて夏休みのよい思い出となりました。

川俣モノづくり体験（イベント出展）

福島イノベ機構では、川俣町で開催された「川俣モノづくり体験」にブースを出展しました。ブースではパネルや映像で「福島イノベーション・コースト構想」に関する情報を発信したほか、プログラミング学習ロボット「P E T S」の体験や、リビングロボット社製「あるくメカトロウィーゴ」のダンスパフォーマンスを実施しました。

日 時

令和8年7月30日(土)・31日(日) 10:00~15:00

場 所

伊達市川俣町 川俣中央公民館

イベント名

川俣モノづくり体験

主 催

川俣町



高校生連携POPポスター作成プロジェクト

県内の農業科・水産科・商業科に在籍する高校生が、各校の生産物や商品開発品の販売促進を目的としたPOPポスター制作に取り組みます。制作活動を通して学校間の交流を深めるとともに、表現力や協働力の育成を図ることを目的としています。（全2回、今回は1回目）

日 時

令和8年7月31日（金） 13:30～15:30

場 所

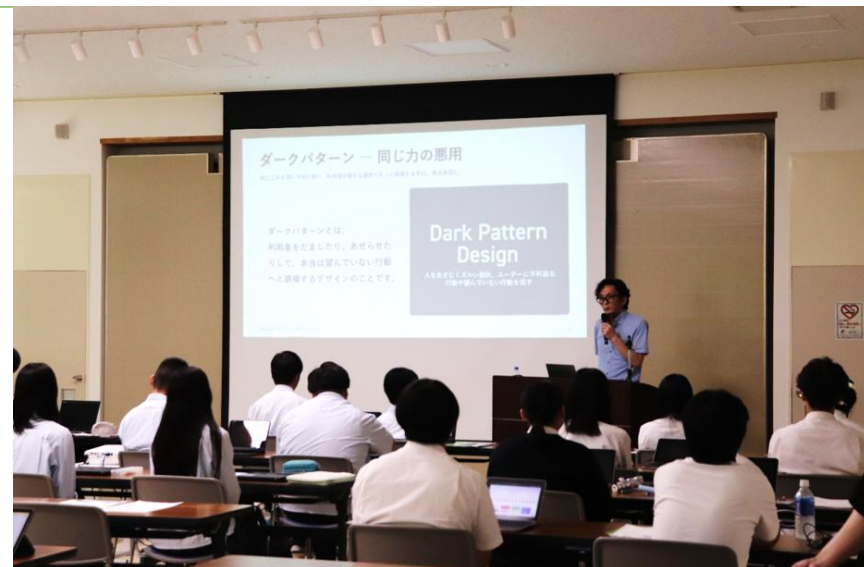
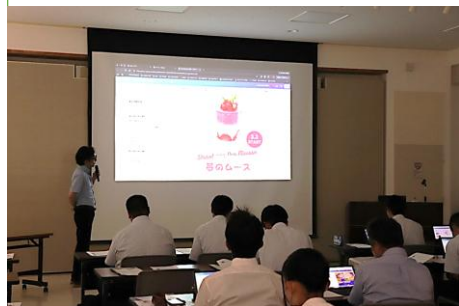
郡山市男女共同参画センター

参加人数

（生徒34名、教職員8名） 合計42名

実施主体

主催：福島県教育委員会
（事業委託先：福島イノベーション・コースト構想推進機構）



（今回の実施内容－基礎編）

- 1 デザインの基礎を学ぶ
 - ・POPポスターの役割
 - ・伝わるデザインとは
- 2 Canvaの使い方
 - ・基本操作を身につける
 - ・制作に着手する

（次回 8月19日（水））実施予定の内容

- ◎ 仕上げと講評会
 - ・フィニッシュワークで完成度を高める
 - ・印刷・展示を意識して仕上げる
 - ・講評会で、他者の作品から学ぶ



※右写真は昨年度のもの

郡山女子大学短期大学部地域創成学科の小松大志教授を講師に迎え、POPポスター作成に関する講義を実施しました。参加生徒は、普段触れる機会の少ないデザインの考え方や制作のポイントについて学びながら、熱心にPCを操作し制作に取り組みました。アンケートは第2回講義終了後に実施する予定なので感想等の聴取はしていませんが、本講義は生徒たちにとって新たな気づきや学びを得る貴重な機会になったと思われます。なお、今回制作しているPOPポスターは、9月12日（土）に郡山市総合体育館で開催される福島県教育委員会主催「探究EXPO」において、各校の生産物や商品開発品の販売時に活用される予定です。

【伝承館】事業評価委員会、初めて開催

当機構は東日本大震災・原子力災害伝承館の主要4事業を含む令和7年度の運営全般について、事業評価委員会として評価を行う初めての会合を開催した。これは昨年までの「有識者懇談会」を発展させたものである。伝承館は今回の意見を最終案に反映させ、8月下旬を目途にホームページで公開する。

日 時

令和8年7月31日（金）10:00～12:00

場 所

東日本大震災・原子力災害伝承館研修室

参加人数

事業評価委員9名（内オンライン2名）、他にオブザーバー等16名参加。マスコミ2社取材

主 催

（公財）福島イノベ機構



事業評価委員（任期2年間）は10名で構成されている。①今村東北大副学長、②ユリア東北大准教授、③前川福島大准教授、④大林県教育庁教育総務課長、⑤田邊国立博物館課長、⑥筑波県立博物館学芸員、⑦平岩双葉町副町長の7名は現地出席、⑧吉田福島大学教授と⑨坪倉県立医大医学部主任教授はオンライン出席でそれぞれ意見を述べた。欠席となった⑩青木ふくしま語り部ネットワーク会長は、会合に意見書を寄せた。委員の互選で、委員長に今村氏が、副委員長に前川氏が選出された。